

第八回 是川縄文の里 俳句大会 中・高校生の部 入賞作品一覧

第一位	蝉時雨土偶と供に耳澄ます	八戸商業高	二年	長谷川 瑞於
第二位	☆ 菊の香をふわり羽織りて土器眠る	八戸高	一年	七役 歩希
第三位	風吹きて土偶にそつと乗る桜	八戸商業高	二年	八重垣 樹李
第四位	☆ 野焼きの日とんぼと共に見守るよ	是川中	二年	角沢 桜佳
第五位	☆ 十五夜に子宝願う合掌土偶	向陵高	二年	松橋 峻
第六位	秋風や土器のぬくもり手に伝ふ	八戸商業高	二年	夏堀 梨央
第七位	虫たちの歌声ひびく世界遺産	是川中	二年	目時 美優
第九位	イネのほがゆれる波間で土器を掘る	是川中	一年	中居 凜琥
	昔の知恵どんぐりクッキー美味しいな	向陵高	二年	中村 陽征
	夏の空思いがまつた土偶たち	向陵高	二年	板橋 宙
	真冬日に乾燥肌の土偶たち	八戸商業高	二年	澤居 萌望
	秋の色縄文土器のあわいいろ	八戸商業高	二年	長根 穂香
第十三位	夏風がたて穴住居を通って行く	湊中	三年	富田 凜
	春の土何処かに潜む知恵の土器	湊中	三年	鬼柳 心結
	梅雨曇足無き女性土偶かな	島守中	二年	館 悠介
	薄暑光神秘に輝く合掌土偶	向陵高	二年	佐藤 愛瑠
	是川の秋の田んぼはこがね色	向陵高	二年	山田 梅禾
	黄金の稲穂が光る田んぼ道	是川中	一年	赤坂 友紀
	座す土器に窓明かり差す夏の宵	八戸商業高	二年	小橋 温和
	畑打ちで土に見つけた祈りの手	八戸商業高	二年	林崎 桜
	桜舞ひ桃色帽子被る土偶	八戸商業高	二年	黒坂 美空
	芋掘りで見つけたそれは縄文土器	八戸商業高	二年	中居 里帆
	現し世の夏星照らす縄文土器	八戸商業高	二年	上沢 春華
	暑さにも顔色変えぬ土偶たち	八戸商業高	二年	櫻井 望結
第二十五位	夏休み見て触れ学ぶ考古学	白銀南中	二年	澤野 暁
	縄文の歴史を学ぶ夏休み	湊中	三年	堺田 容司
	汗ながし日焼けに気づかず作る土器	湊中	三年	吉岡 聖夏
	夏がきた暑い中でも土偶みる	湊中	三年	佐藤 莉愛
	目を閉じて歴史感じる瞑想中	湊中	三年	泥濘 桜
	縄文が雪の地底に眠ってる	向陵高	二年	船田 悠成
	縄文の土器を見つける夏の朝	向陵高	二年	富田 奏翔
	秋晴に照される里縄文館	向陵高	二年	岡本 宏哉
	是川と秋の景色にそぐう土偶	向陵高	二年	田端 楓華
	暮れの秋国宝部屋の合掌土偶	向陵高	二年	菱事 弘季
	里の秋伝統残す縄文館	向陵高	二年	山本 真央
	初夏の風縄文の里に吹いている	白銀南中	一年	佐々木 波夏
	土器土偶雪に囲まれ出土する	是川中	一年	佐々木 遼介
	柿実り歴史をたどる縄文館	是川中	一年	風張 優吾
	是川の自慢の景色紅葉狩り	是川中	一年	水合 凌徠
	野焼き後の真っ黒こげの土器完成	是川中	一年	阿部 由奈

第八回 是川繩文の里 俳句大会 中・高校生の部 入賞作品一覧

第二十五位

冬深し暖とる土偶土の中	八戸商業高	二年	下坪	光生
炎昼や強き日差しに照る土偶	八戸商業高	二年	白井	心緒
夏の日が照らす土偶と仔山羊たち	八戸商業高	二年	荻沢	碧衣
夏の日も涼しき顔の土偶たち	八戸商業高	二年	十文字	佳菜
春日和心落ち着く土偶たち	八戸商業高	二年	豊島	ひかり
猛暑の日合掌土偶は雨願ひ	八戸商業高	二年	柳沢	優望
秋星に祈る土偶や空遠く	八戸商業高	二年	小田川	瑠美
秋風や時代を繋ぐ縄文土器	八戸商業高	二年	高橋	優那
数々の遺跡を照らす春の星	八戸商業高	二年	田村	佳奈
かじかむ手不細工な土器ここにあり	八戸商業高	二年	柳谷	渚沙

☆ ……天位（色紙を贈呈）

中・高校生の部 応募数 196句